

# 花高同窓会会報



## 第113号

発行 平成29年2月28日

秋田県立花輪高等学校  
同窓会事務局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12

TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137

URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudosou/>

印刷 (株)大館印刷



奥羽山脈に立つ花輪スキー場

### 記念寄稿

## 『若き後輩たちに期するもの』

旭日小綴章叙勲 中 西 日出男 (高14期)



ら感謝しても足りるものではないと思います。衷心より市民の皆様には厚く御礼申し上げます。

私こと、この度平成二十八年秋の叙勲に際しまして、はからずも旭日小綴章叙勲の栄に浴し、身に余る光栄と感激致しております。

この受章は、私ひとりの榮譽ではなく、多くの皆様に支えられてのお陰と心から感謝致しております。又、議員各位のご支援、ご協力によりまして議会の役職も多く経験させて頂きました。これは私にその能力があったからだとは毛頭ございません。少しは苦勞して自分を磨き、議会のために役に立つ人間になるようにとの思いやりによるものと受け止めております。にもかかわらず少しでも市民の皆様への期待に応えることができただろうかと思うとき、内心忸怩たるものがあります。

こうして無為に過ごした二十年ではありましたが、叙勲を戴きましたことは、私が讃えられたのではなく、私をご支持し、ご協力下さった市民の皆様が讃えられたものであり、私としても皆様にいく

さて、花高の若き後輩の皆さん、高等学校は過去九年間の議身教育とは異なるものです。まず、皆さんは自らの意思で受験に挑み、選ばれて合格しました。入学時の皆さんは、期待と希望に胸を膨らませ、意欲に燃えていたことでしょう。高校の三年間は、期間としては必ずしも長いものではありませんが、人生における人間形成の観点からは最も重要な時期であり、かつ誰にも一生印象に残る大切な時期でもあります。

良き師を得、生涯の友人と巡り合い、学習にスポーツに、芸術に思いつきりアタックして、自主独立の精神を養い、将来に向って羽ばたく大変重要な準備期間であると思えます。持てる若い力を思いっきり勉強につけて、実りある学習の成果を得られんことを心から望むものであります。

三年の間には、時には挫折もあり、失望に沈む時もあるかもしれませんが、独立独立の精神を持って克服し、常に明るく、力強く前進して頂きたいと存じます。

### プロフィール

昭和18年生まれ。亜細亜大卒。平成5年4月に初当選して以来、25年3月まで連続5期20年にわたり、鹿角市議。17年4月から21年3月まで議長を務めた。全国市議会議長会表彰など受賞。

**同窓会(井上高廣会長)による第66回全国高等学校スキー大会出場者激励式を平成29年1月18日に開催いたしました。**

### 会長挨拶

全県総体で男子の総合6連覇、女子は2年ぶりの総合優勝、19人のインターハイ出場おめでとうございます。2月2日からインターハイが始まりますが、今県総体で結果を出した選手は自分の力を信じて活躍してください。不満の残る結果に終わった人たちは、県体や練習を通して課題を解決しインターハイでは最高のパフォーマンスにしてきてください。インターハイで活躍してもそれで満足するのではなく世界を舞台に活躍できる選手に成長することを期待しています。

### IHSスキー結団式

### 監督から

先日の全県総体スキー大会では学校、保護者、地域の声援を受けて男女総合優勝をすることができました。

その中でIH出場権を獲得した19名の選手は2月2日から群馬県で行われる「第66回全国高校総体スキー大会」に出場します。花高生として誇りと自信を持って、今までで最高のパフォーマンスを発揮できるように心と体の準備をしてほしい。

### 主将から

昨年のIHは男子総合3位という結果でした。毎年、総合優勝という目標を掲げている私たちには悔しい結果でした。今年こそ3セクションで力を合わせて必ず総合優勝を勝ち取ります。応援よろしくお願いします。



木村 吉大選手  
北鹿新聞社提供



宮崎 敬太選手  
北鹿新聞社提供



特別寄稿

『詩との出会い』  
詩を読みはじめた花高生に

詩人 前原正治氏(旧職員)



現代詩の問題として指摘したいことが一つあります。それは、若い人と現代詩との出会いです。近・現代詩の作品は中学校・高校の教科書に必ず載っており、全ての若い人は一度は現代詩に触れているはずですが、その多くは感動的な出会いではなく、無味乾燥な解釈を通しての、解剖学的詩片の散乱との立ち会いではなかったでしょう。現代詩から逃げて、若い人に次のように私は語りかけたい。

詩を読むためには、まず言葉を愛さなければなりません。それは、日常生活の中で従属させられ、表層の意味だけ伝達される言葉ではなく、深い意味での言葉そのものです。言葉は、一つの独立した生命体です。生命の流れとしての言葉の関連を通して、私たちは「世界」に触れ、それを獲得しその内

部へと囲われるのです。詩は、具体的世界です。私たちの人生であり、その断面であり、それをつつんで拮がっている自然や、その謎めいた部分でもあります。詩を分析的な意識で割り切ろうとすると、詩の生命は凝固し沈黙してしまいます。詩は、哲学や人生論ではありません。詩を味わうためには、一見矛盾や飛躍や唐突に満ちた「感情の論理学」を学ばなければなりません。そのとき知性は、いわば芳香のように感情の中に溶けてしまいます。

言葉の響きに導かれて意識の水路を広く深い川にし、変転するその川につきつぎと映るイメージで思考することが、詩の鑑賞の大きな部分です。結局は、詩は想像力の問題です。日常生活とは、いわば平板化した想像力の堆積です。詩がしばしば愛や孤独や自然を歌うのは、そこからみずみずしい想像力が泉のように湧き出すからです。詩は、事実の世界ではなく、言葉への愛と詩的想像力によって喚起された真実の世界であり、詩によって私たちの存在は、震えたり叫んだり沈黙したり、世界の暗さへ沈んだり、あるいは世界の

明るみへと裸のまま晒されるのです。



花輪図書館にある詩集「水の時間」と「緑への風景」

プロフィール

1941年(昭和16)宮城県塩釜市生れ。仙台一高、早稲田大学文学部英文科卒。花輪高校旧教職員(昭46・4、昭和56・3)。1968年に詩篇「緑の微笑」等5編で第9回晩翠賞受賞。「黄泉の蝶」宮城県芸術選奨。「水離る」更科源蔵文学賞。日本現代詩人会・日本詩人クラブ・日本ペンクラブ・日本文藝家協会各会員。宮城郡利府町在住。

全国高校スキー  
(1日目)

―尾瀬に翔べ!―  
君が輝く銀世界―

大会スローガンのもと、第66回全国高校スキー大会が2月2日に群馬県片品村文化センターで開会式を行い、開幕した。

県選手団の旗手を務めたのが、児玉滂香(2年)である。大役を無事務め上げ「かなり緊張したが無事にできて良かった」と安堵の表情を浮かべていた。

全国高校スキー  
(2日目)

インターハイ2日目、純飛躍で宮崎敬太(2年)が優勝を飾った。

安定したアプローチから飛び出すと、向かい風を利用して飛距離を伸ばし、K点(75m)を大きく越え、ヒルサイズ(83m)地点に着

地。2位に4.5m差をつける大ジャンプで、県勢初となる純飛躍優勝を果たした。

花高スキー部の快挙であり、同窓会にとっても大きな希望の星、さらに大きく成長してくれることを期待する。

全国高校スキー  
(3日目)

インターハイも連日の優勝に湧き上がる。複合で木村吉大(3年)が初優勝した。並みいるライバルを抑え、得意の後半距離で見事な巻き返しを見せた。終盤の一騎打ちを制し、両手を高々と突き上げてゴール!

スキーの名門・花高ここにありである。鹿角3校統合を吹き飛ばす快進撃である。今後の活躍にも期待をしたい。

安倍洋直先生に感謝

川又 節三(高8期)

高校卒業間際迄希望していた職場からの合格通知がなかったことから、担任の安倍先生をおして都会のある職場に就職申込書を提出しておりましたが、

その後地元就職が決まりましたので、取消しさせて頂きました。

卒業後であったことから、申込書類が私宛に返送されて来ました。その時初めて、先生が書いてくれた自分の成績証明書の中味を知ることができました。

担任教師の評価欄に想像以上の、あまりにも有難いことが書かれていたことに、安倍先生の教え子への思いやりの深さに唯々頭の下がる思いでした。今は天国におられる安倍洋直先生に対し、改めて感謝申し上げます。合掌(花輪)

### ありがとう(三)

桜田 守宏(高9期)

「二・二三年生(A組)の頃、クラスの女生徒達はチャージミングで清楚、頭脳明晰、おまけに校内のいろいろなクラス対抗競技では連戦連勝など、私共男子生徒へ希望と勇気を与えてくれました。」

「二夏休みには、米代川に水浴びする学童達の監視アルバイトの魁として、その社会的責任、父兄達からの感謝の声など、快適で貴重な体験をさせていただきました。」

「二普通科でも初めて加減乗除の算盤をしつかりと教わり、社会での事務管理に大層役立ちました。その後東京など全国各地へ転勤したり、五十代の半ばには霞が関の窓際の席をけがしたり、国会議事堂通行証の交付を受けたりしたのも、以上三つの「ありがとう」のお蔭だと深く感謝しております。」

(尾去沢)

### 学級日誌に思う

畠山 裕(高20期)

私の手元に、当時三年F組の学級日誌がある。卒業五十年近くの多くを預かっている。なぜかという経緯に今は記憶がない。しかも、今は短期貸出し中で、何回目かの日誌不在期間だ。

日誌の中の私は、決まりきったことしか書いてない。そのページはほぼ空白だ。ほかの級友は、青春の輝き、悩みを堂々と書き連ね、

社会情勢を論じ、学校に対する要望や不満を述べている。

級友に会うと私はよく言う。その頃は自我の形成途中であり、まだ目覚めてないと。そして思っている。ずっと仲間として付き合ってくれたお蔭で今があると。ありがとう。

昨年の記念行事前日のクラス会で、出席者から来年秋の幹事長に指名された。受諾拒否を肴に盛り上がる。が、仕方ない。受けるか。(花輪)

### 先生、ありがとう

山田 欣子(高24期)

二・三年生の時担任だった安田先生には、随分お世話になった。

夏休みのキャンプで男鹿半島に一泊後、クラス全員が先生宅に泊めてもらったのだ。皆でカレーなどを作り、男女一階と二階に別れて寝た。生徒のために自宅を開放し、

二日間大騒ぎをさせてくれたあの時の先生、奥様とご両親には感謝のことばしかない。

就職して、職場での人との関わり方の難しさなどで悩んだ時に思いつくのは、安田先生のことだった。誰でも受け入れてくれるやさしさ、心の広さが忘れられない。

今でもクラス会には奥様とお揃いで参加してもらっているが、必ず話題になるのはあの時のキャン

プの事である。心に残る楽しい思い出をありがとう、先生。(花輪)

### チームメイトにありがとう

佐藤 由則(高23期)

あと一本で県大会団体優勝!!しかし逆転され準優勝となった軟式テニス大会。まぼろしとなったインターハイ出場。チームメイトは頑張ってくれた。すべては私が勝てなかったのが原因。しかし、チ

ームメイトは全く私を責めなかった。準決勝・決勝と全く勝てなかった。本当は悔しかったが頑張った結果だから受け入れるしかない。言い訳にはな

卒業特別企画  
『私のありがとう』  
高校3年間で、恩師やクラブの先輩、クラスメイトに今だか言える貴重な「ありがとう」をカミングアウトして下さい。

るが大会前日に祖父が亡くなってしまった。葬儀等を

済ませてから大会に合流したが、全くボールについていけないかった。

卒業してから四十五年。ずっと心に来ていた傷。責める言葉も発する事なかったチームメイトに『ありがとう』の言葉を言いた

しまったが、私の青春の財産です。(花輪)

### 二十四年越しのありがとう

川又 純子(高45期)

私が「ありがとう」と感謝の言葉を言わなくてはならない人は、高校二・三年生時の担任を受け持つて頂いた山本文志先生です。

私は大学に推薦入試で合格し進学しました。入試の試験内容は小論文と面接でしたが、小論文を書いた事のなかった私に、先生は入試前の一、二ヵ月間書き方の特訓をして下さいました。毎日、先生

にお題を頂いて小論文を書き添削をして頂きました。お蔭様で試験ではあまり緊張せず、時間にも余裕を持って書き上げられたように記憶しております。

ですが今思うと、合格した喜びで気持ちが舞い上がってしまい、きちんと先生にお礼を言えていなかったように思います。二十四年越しになってしまいました。二十一年に合格できたのは山本先生のご指導のお蔭です。先生、本当にありがとうございます。(花輪)

### 花高にありがとう

工藤 嘉則(高25期)

まだ、雪の残る四月。床板の貼られていない体育館での入学式。寒くて、震えていた私に、大丈夫かと声を掛けてくれた大畑君に有難う。変声期で全く声の出なかった時の応援歌の練習。口パクでやっていたら、応援団員の先輩に

注意された時に、かばってくれた

クラスメイトに有難う。

三年生の文化祭の時、モニュメント「オランダの風車」作りの材料運搬。本当はやってはいけない事だったトラックで、教室の前の裏庭に乗りつけた時、何も言わず許して下さいました黒沢先生に有難うございます。

在学中ではなかったのですが、創立九十周年で花高を訪れた時に、在校生の皆さんの挨拶、礼儀正しさに有難う。(十和田錦木)

### 心のふるさと

石鳥谷初枝(高26期)

今はなだらかな坂を通りますが、以前は万山林に添った急な坂道をたくさん花高生が登って、登校したものでした。

私の家は花高のそばにあったので、三年間はあの坂を登校の際、登ることはなかったのですが、他の人たちは大変だったと思います。冬になると雪で滑りやすくなって、車にひかれそうになった事もあり危なかったです。今でもその頃の面影が残っています。

その昔からある坂と現在使用されている坂が交差する所に、畠山商店がありました。店では、近所の人と花高生も交わって語らいの場となる時もありました。

花輪高校は、校舎や校庭だけではなく、ここ明堂長根の高台の地域の皆さんとも思い出がいっぱい詰まった心のふるさとです。花高ありがとう。(花輪)

思い出の遠足

柏田千鶴子(高18期)

高校時代の楽しい思い出といえ  
ば、クラスメイトと一緒に買った  
甘露遠足です。

にぎやかで明るかった高校一年  
生のクラス。五月中頃のことだっ  
たでしょうか。みんなで遠足に行  
こうという計画が持ち上がり、日  
曜日に誘い合わせてでかけまし  
た。個人のお宅の別荘があった屋

敷の裏手の林で、手つなぎ鬼をし  
たり、隠れんぼをしたり、男女一  
緒になって遊び、笑いころげまし  
た。ちょうど若葉の芽吹く季節で  
す。私は、気付かないうちに漆の  
若葉に触れたのでしょうか。その  
日の夕方に顔が腫れあがったので  
す。でも、一緒に遊んだ楽しさが、  
痒さを忘れさせてくれました。  
楽しい企画を立ててくれたみん  
なに、今でも感謝しています。  
(花輪)

花栄会活動報告

『秋高連28年度フェスタ開催される』

副幹事長 根 市 知 宏(高25期)

昨年12月7日、アルカディア  
市ヶ谷にて、在京秋田県高等学校  
同窓会連合会(秋高連)28年度フェ  
スタが、県内35校の同窓会から  
252名、秋田県関連の来賓43名

の計295名の参加のもと盛大に  
開催されました。我が花栄会から  
は役員ら10名が参加し、会場の25  
卓のひとつを囲んで歓談しました。  
第1部の講演会では、女子バ  
レーボールのモントリオール五輪  
金メダリストの角館南高(現角館  
高)卒の荒木田裕子さんが「秋田  
からオリンピックへ」というテー



橋本五郎氏・なまはげと共に

マで、現役時代の猛練習や海外留  
学での経験談などを述べられまし  
た。第2部の交歓会では、地元  
秋田の数々の銘酒を堪能しながら  
、各校の垣根を越えた交流が行  
われ、秋高連メンバーによる民謡  
や演奏、県関連の歌手らの熱唱な  
どで大いに盛り上がりました。最  
後に、年末年始に行われる高校ス

ポーツ全国大会出場校へのエール  
交換があり、恒例のなまはげが登  
場し、県内各校のスポーツ・文化  
活動支援のためのチャリティが行  
われました。また、物産展コーナー  
では、今回初めて十和田八幡平観  
光物産協会の特産品が販売され、  
大変好評でした。  
次回は本年5月28日に開催され  
ますが、花栄会では秋高連の最大  
イベントである本フェスタへの参  
加を通じ、今後とも秋田県内外関  
係者との情報交換と交流を図って  
行く予定です。



参加した花栄会の皆さん

平成29年度 総会開催のご案内

- ・日 時：平成29年5月14日(日) 午後5時
- ・場 所：鹿角パークホテル・2F鳳凰殿
- ・会 費：4,000円
- ・申込先：☎0186・23・2126 担当・木村まで

…よろしくお願ひします…

第69期クラス幹事 (H28年度卒)

- |    |        |     |     |     |
|----|--------|-----|-----|-----|
| A組 | ○小笠原 崇 | 嘉 蓮 | 福 島 | 美 結 |
| B組 | 金 谷    | 拓 蓮 | 菊 池 | 春 佳 |
| C組 | 新 林    | 勇 実 | 阿 部 | 美 早 |
| D組 | 木 村    | 登 登 | 兔 澤 | 紀 陽 |

○印は学年代表幹事

～石ころ～

花輪祭の屋台行事がユ  
ネスコ無形文化遺産に登  
録された。花輪の名が世  
界を駆け巡るのである。  
山本有三の小説「路傍の  
石」の中に人生の道標と  
なる一節がある。たつた  
一人しかいない自分を  
たつた一度しかない一生  
を/本当に生かさなかつ  
たら人間/生まれてきた  
甲斐がないじゃないか  
と。この小説を書いてい



る途中で、  
山本はペン  
を折ると  
言つて書く  
のを止め

―― 幹事長 奈良 努 (高25期) ――  
た。未完のままの小説が  
今尚読み続けられている  
のは、人を感動させる何  
かを秘めているからだろ  
う。人生とは自分の人生  
である。今こそ、花高の  
名を世界に馳せる気概を  
持つて自分の人生を大い  
に愉しんでほしいもので  
ある。いつの日か、酒で  
も飲みながら、共に肩を  
組んで、凱旋歌を歌おう  
じゃないか。君たちも。